

# 埼玉大学教職大学院説明会

2023年6月16日(金) 14:40~15:40

Zoomで参加している方へ

- ①カメラとマイクをOFFにしてご参加ください。
- ②Zoom表示名を「所属・氏名」としてご参加ください。



# 本日の流れ

- ① 専攻長挨拶 (宇佐見 専攻長)
- ② 埼玉大学教職大学院の概要 (宇佐見 専攻長)
- ③ 教職大学院の学修内容について (竹澤 先生)
- ④ 実地研究とは (石田 先生)
- ⑤ 大学院入試情報について (近藤 先生)
- ⑥ 現役院生の言葉 (教職大学院 1 年 赤間大樹さん)  
(教職大学院 2 年 小浦一さん)
- ⑦ 質疑応答



## ②埼玉大学教職大学院の概要

○入学定員 52名

○入学者数 R4 学卒院生 41名 現職院生 13名

R5 学卒院生 31名 現職院生 13名

→学卒入学者のうち、3人に1人は他大学出身の学生です。

○教員数 87名 うち専任教員18名(実務家教員8名)

○学費

入学料 282,000円(予定額)

授業料 267,900円[前期分(予定額)]

535,800円[年額(予定額)]

※上記費用の他、保険加入などの費用がかかります。

○取得できる学位 教職修士(専門職)



# ③ 教職大学院の学修内容について

埼玉大学教職大学院ではどのようなことが学べるの？

埼玉大学教職大学院ではどのようなことが研究できるの？

学卒と現職教員や他のサブプログラムとの交流、勉強の機会はあるの？



研究科カリキュラム委員会

# 埼玉大学教職大学院がめざす教師像 (パンフレットP. 3)

《 埼玉大学教職大学院がめざす教師像 》

かかわり、考え、つながり、問い直しつづける教師

1

子どもの学びと  
育ちを支える  
教師

*teacher as caring profession*

具体的な状況のなかでの  
子どもの学びと育ちを  
支えるために

2

省察的  
実践家としての  
教師

*teacher as reflective practitioner*

自分たちの教育実践を  
熟考、創造、  
省察してゆく過程で

3

多様な人、  
場、知をつなぐ  
教師

*teacher as learning coordinator*

多様な人や場や  
知とのつながりを  
うみだしながら

4

教育の実践的  
研究者としての  
教師

*teacher as practical researcher*

たえず教育の問題や  
意味を問い直しつづける  
教師

# ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与方針）

専門職学位課程（教職大学院）は、社会の変化とともに学び続け、教員集団の中核として活躍する実践的探究力と課題解決力をもった教員を育成することを教育目的とする。この教育目的を達成するために、以下の資質・能力を獲得した者に対し修了を認定し、教職修士（専門職）を授与する。

## 1. 高度な知識・技能に基づいた授業実践力

子どもたちの個性に応じた学習支援に配慮しつつ、彼らが主体的・協働的に学ぶ授業をデザインし、実践できる高度な力

## 2. 子ども理解に基づく学級経営力

子どもたちや子どもたちを取り巻く現状を多面的多角的に把握した上で、良好な人間関係を構築し、彼らの思いや願いを受けとめた適切な学級経営ができる高度な力

## 3. 的確な課題把握に基づく教育経営・学校運営力

学校課題を的確に把握して問題解決をはかり、学校運営の中核的スクールリーダーとなりうる高度な組織マネジメント力

## 4. 深い省察に基づく実践研究力

教職実践者として実践を深くリフレクションしながら、実践と理論を往還する高度な研究力

現職教員として入学した者には、上記1～4.に加えて以下の資質・能力の獲得を求める。

## 5. 学校運営改善を推進する提案力

最新の教育動向を踏まえ、学校現場に向けて、効果的な授業の改善策や学校運営の改善策を提案し推進していく高度な力

## 6. 地域や他校との連携を円滑に進める調整力

対話を通して、地域や他校との適切な調整を行い、連携を推進することができる高度な力

# 教職大学院の 3つのねらい

協働して取り組む**共同探究力**の育成

新しい時代の変化にも対応した**高度な教材開発力・教科指導力**の育成

実践的な**省察**の充実

# 1. 協働して取り組む共同探究力の育成

- 複雑化し多様化する学校現場の問題の解決のために発揮される
- 組織として教育活動に取り組む体制づくりに積極的に参画し、自らの専門性を発揮しながら協働して問題解決を図る資質・能力を育成 **チーム学校**の体制づくりの中核を担う教員
- 学校内外の他職種との協働（養護教諭、スクール・カウンセラーなどの心理領域の職種、スクール・ソーシャルワーカーなどの福祉領域の職種）、他校種連携（幼児教育と小学校、インクルーシブ教育など）、学校外の関連専門機関や、地域の専門職・専門的人材との連携が求められる中、それぞれとつながりながら問題を解決することができる教師
- 「現代的・地域的教育課題の共同探求（ジョイント・リサーチ）」の設置



## 2. 高度な教材開発力・教科指導力の育成

- 高水準の教科特有の知識・技能の習得や探究を基盤としながら、自分の授業実践の向上を可能にする教材研究・授業研究の力量を形成
- 「主体的・対話的で深い学び」「社会に開かれた教育課程」など、授業改善や新しい教科領域にまたがる教育内容の開発、カリキュラム・マネジメントを推進する協働的な教員集団の中核としてその力量を発揮できる教員
- 教科横断・分野交流の活動を取り入れた教科教育に関する共通科目の設定を特色としている。自分の専門教科だけでなく他の教科のトピックや課題に触れることで、新しい教育内容の開発につながる高度な教科教育力の育成を行う

### **3. 教員の実践的力量的の向上に欠かせない 実践的な省察の充実**

- 複雑な要素が絡む学校現場の問題状況に対し、学校教育の当事者の中核として問題解決を図ることのできる教員
- 現場の閉塞状況を打破するために、問題が生じている固有の子どもや教室の中で特定の文脈や状況を適切に読み解く省察の在り方が問題解決の成否を握っている
- 「理論と実践の往還」の過程で、それぞれを架橋していくもの
- 「実地研究Ⅰ・Ⅱ」の充実とその振り返りを含む「学校と教職の課題探求（グループ・カンファレンス）」の強化

# サブプログラム（教科）について （パンフレットP.3）

| 課程名         | 専攻名        | プログラム名           | サブプログラム名       | 教科名        |
|-------------|------------|------------------|----------------|------------|
| 専門職<br>学位課程 | 教職実践<br>専攻 | 総合教育高度化<br>プログラム | 学校構想サブプログラム    |            |
|             |            |                  | 特別支援教育サブプログラム  |            |
|             |            |                  | 学校保健サブプログラム    |            |
|             |            |                  | 子ども共育サブプログラム   | 教育学／幼児教育   |
|             |            | 教科教育高度化<br>プログラム | 言語文化系教育サブプログラム | 国語／英語      |
|             |            |                  | 社会系教育サブプログラム   |            |
|             |            |                  | 自然科学系教育サブプログラム | 算数・数学／理科   |
|             |            |                  | 芸術系教育サブプログラム   | 音楽／図画工作・美術 |
|             |            |                  | 身体文化系教育サブプログラム |            |
|             |            |                  | 生活創造系教育サブプログラム | 技術／家庭      |

# 卒業に必要な科目と単位数 (パンフレットP.6, 7)

| 科目区分      | 単位数 | 履修方法   |
|-----------|-----|--|
| 共通科目(5領域) | 16  | 共通必修科目(2単位×4領域、4単位×1領域)+サブプログラムごとに定められた領域内4単位<br>※所属するサブプログラムが指定する科目以外の共通科目については、履修はできるが、修了要件には入らない。                 |
| 実地研究Ⅰ・Ⅱ   | 10  | 必修 ただし、養護教諭免許→実地研究Ⅰ・Ⅱ(学校保健)<br>ただし、特別支援免許→実地研究Ⅰ・Ⅱ(特別支援教育)を履修<br>※短期履修制度利用の現職教員は、実地研究Ⅱの6単位を教育現場での経験により審査の上履修免除とする。    |
| 課題研究Ⅰ・Ⅱ   | 4   | 必修 ただし、養護教諭免許→課題研究Ⅰ・Ⅱ(学校保健)<br>ただし、特別支援免許→課題研究Ⅰ・Ⅱ(特別支援教育)を履修<br>※短期履修制度利用の現職教員は通常年限の院生が2年次に履修する課題研究Ⅱを冬期休業中に集中して履修する。 |
| サブプログラム科目 | 10  | サブプログラムごとに設定した必修または選択必修の科目   |
| 選択科目      | 6   | 上記の「サブプログラム科目10単位」以外の全サブプログラム科目及び「現代的・地域的教育課題の共同探求」から選択  |
| 合計        | 46  |  |

**★共通科目 5領域 16単位履修**  
**\*印は全員必修 他はサブプログラム指定の必修**

|                    |   |
|--------------------|---|
| 教育課程の編成・実施に関する領域   | 教育課程の課題探求 *<br>子ども共育の理論と実践<br>教科の教育課程構成論                      |
| 教科等の実践的な指導方法に関する領域 | 教科指導の課題探求 *<br>特別支援教育の課題探求<br>教科指導の発展・応用                      |
| 生徒指導、教育相談に関する領域    | 生徒指導・教育相談の課題探求 *<br>特別支援教育コーディネータ演習<br>子供の発育発達と保健室における養護教諭の実践 |
| 学級経営、学校経営に関する領域    | 教育経営の課題探求 *<br>学校構想の理論と実践<br>現代の健康問題と学校保健の実践的課題               |
| 学校教育と教員の在り方に関する領域  | 学校と教職の課題探求 *<br>学校課題改善演習                                      |
| 小計(14科目)           | 「学校と教職の課題探求」のみ通年4単位、他は半期2単位                                   |

# ★共通科目の特色

- 「学校と教職の課題探求」のみ、通年開講の4単位、授業展開のなかで講義・講義と演習に加えて、実地研究での学校の経験に基づいた省察と対話を含む「グループ・カンファレンス」を取り入れて授業を構成する。テーマに沿った専門性を持つ大学教員とともに、定期的に実地研究の振り返りを行う。
- 他の4つの必修科目（\*印2単位）は、ターム制を利用し2コマ連続の1/4学期、を2クラス設定
  - ・・・講義と演習を連続した時間設定で効果的に実施するため

# ★課題研究Ⅰ・Ⅱ

- 課題研究Ⅰは、学校現場での教育実践に触れることを通して、教育実践に関する課題意識を明確にし、教育実践に係わる基礎的事項の学修を進め、教職および教育実践力の高度化に資する研究を行うことを目的とする。
- 課題研究Ⅱは、実地研究やその他の教育実践への関与により、教育実践についての課題意識に即した探究を継続し、指導教員との協議のもと、定期的にリフレクションを行いながら、その研究成果を課題研究報告書にまとめる。
- 課題研究のテーマは、院生個々の興味や専門性を生かして設定し、主・副の複数の指導教員が指導する体制をとる。
- 2月に開催される教育実践フォーラムで研究成果を発表する課題研究発表会を行う。

# ★選択科目

- ・「現代的・地域的教育課題の共同探求(ジョイント・リサーチ)」

教育に関わる現代的かつ横断的な問題、埼玉県という地域に関わる問題に関して、多様なスタッフや院生が、課題設定から成果公表の過程を協働しグループでの研究を行う。学校を中心としたいくつかのフィールドを行き来しながら、問題を多角的に検討する内容とする。

- ・「探求活動演習 I・II」(修了要件外)

将来博士課程への進学を志望しているものを対象として、院生が強い興味関心を持つ特定の分野について、それを専門とする教員の指導を直接受けながら個人での探究活動を行う。



# 取得できる免許状の種類

(総合教育高度化プログラム)

| プログラム名       | サブプログラム名      | 種類            | 教科   |
|--------------|---------------|---------------|--|
| 総合教育高度化プログラム | 学校構想サブプログラム   | 小学校教諭専修免許状    |  |
|              |               | 中学校教諭専修免許状    | 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語                           |
|              |               | 高等学校教諭専修免許状   | 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、福祉、英語 |
|              | 特別支援教育サブプログラム | 特別支援学校教諭専修免許状 | 知的障害者、肢体不自由者、病弱者   |
|              | 学校保健サブプログラム   | 養護教諭専修免許状     |  |
|              | 子ども共育サブプログラム  | 小学校教諭専修免許状    |  |
|              |               | 中学校教諭専修免許状    | 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語                           |
|              |               | 高等学校教諭専修免許状   | 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、福祉、英語 |
|              |               | 幼稚園教諭専修免許状    |  |

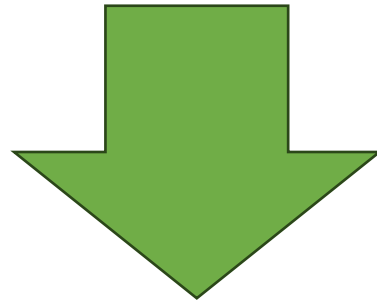
# 取得できる免許状の種類

(教科教育高度化プログラム)

| プログラム名       | サブプログラム名   | 種類          | 教科   |
|--------------|--|-------------|--|
| 教科教育高度化プログラム | 言語文化系教育サブプログラム<br>社会系教育サブプログラム<br>自然科学系教育サブプログラム<br>芸術系教育サブプログラム<br>身体文化系教育サブプログラム<br>生活創造系教育サブプログラム | 小学校教諭専修免許状  |  |
|              |  | 中学校教諭専修免許状  | 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語                           |
|              |  | 高等学校教諭専修免許状 | 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、福祉、英語 |

# 埼玉大学教職大学院の特色

- ・学卒院生と現職院生が共に学ぶ授業構成
- ・サブプログラム、分野の垣根を越えた学び
- ・研究者教員と実務家教員がタイアップした指導体制



**個々の専門性の育成**

+

**校種や専門の垣根を越え  
協同して問題を解決する教師の育成**

# ④ 実地研究とは

大学で教育実習に行ったけどもう一度教育実習に行くの？

実習先はどのようなところがあるの？

実地研究ってどんなことをするの？



# 実地研究の目的

- 学校の教育活動全体について総合的に体験し、教育実践上の課題に対するより効果的な思考法（省察）と対応力を身につけること

**期待される成果**

**学校組織の一員としての実践力の向上  
研究活動の深化、まとめ**

# 実地研究 I

| 科目名（時期）           | 実習校での実践研究活動  | 大学院での研究活動   |
|-------------------|--|---|
| 実地研究 I<br>(1年次後期) | <p>期間<br/>週2日木・金×8週の計16日間</p> <p>ねらい<br/>学校教育における実践を深く理解することを目標とし、実地研究校で実習を行う。</p> | <p>課題研究 I</p> <p>児童生徒の実態及び発達の理解と学校教育の全体構造とを関連づける。</p> |

# 実地研究Ⅱ

| 科目名（時期）          | 実習校での実践研究活動   | 大学院での研究活動  |
|------------------|---|--|
| 実地研究Ⅱ<br>（2年次前期） | <p>期間：週2日木・金×12週、<br/>または、週4日火・水・木・金<br/>×6週の計24日間</p> <p>ねらい<br/>実地研究Ⅰにおける気づきをより深める形で学校の様々な教育場面における多様な教育実践に臨床的に関わることを意図する。</p> | <p>課題研究Ⅱ</p> <p>実践の成果をもとに、各自設定した研究テーマの深化につなげる。</p> |

# 「実地研究」と「教育実習」の違い

## 教育実習

- 教員免許状の取得を主なねらいとする実習。
- 授業の行い方、指導案の作成の仕方など授業を中心とした指導を学校の先生に依頼。

## 実地研究

- 既に教員免許を取得している院生。
- 実地研究校における教育活動全般について総合的に体験。学校現場で起こる様々な課題・問題について主体的に解決するための方策を研究する高度な実務実習。
- 院生は、理想とする教師像を明確にし、その教師像に近づくことができるよう、授業や教育活動に参加。
- 院生も学校を支えていく教員の一員としての意識をもって実習。



教育実習は



# 実地研究は



# 実地研究ⅠとⅡの違い

- 実地研究Ⅱでは、実地研究Ⅰやその後の研究活動をふまえ、学校教育における教育実践研究を実施できるように12（6）週にわたる24日間の実習を設定。
- 実地研究Ⅱは、課題研究Ⅱとの往還を重視し、研究テーマの深化につながる実践に努めるとともに、実地研究Ⅰにおける気づきをより深める形で学校の様々な教育場面における多様な教育実践に臨床的に関わることを意図。
- 以上の実地研究Ⅰ・Ⅱを通して、学校組織の一員として、実践力を高めることを目指す。

※課題研究のための実践活動を主たる目的としていません

# ⑤ 大学院入試情報について



埼玉大学マスコットキャラクター メリンちゃん

研究科アドミッション委員会

# 入試の種類について

1. 一般選抜 (第1期、第2期)
2. 現職教員等特別選抜 (第1期、第2期)
3. 指定校推薦特別選抜 (第1期、第2期)
4. 学部内推薦特別選抜 (第1期、第2期)

※ 1. 一般選抜、3. 指定校推薦特別選抜、4. 学部内推薦特別選抜は  
第3期の募集を行う場合があります。

# 選抜区分ごとの要件

## ① 一般選抜

一般選抜は、2頁の「2 出願資格」における「(1) 各選抜区分共通の出願資格」のうちのいずれかに該当する者。大学新卒者、社会人等。

### (1) 各選抜区分共通の出願資格

教育職員免許法による幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭若しくは養護教諭の普通免許状（専修または1種）を有する者及び取得予定の者で、次の各号のいずれかに該当する者を対象とします。

- ① 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条第1項に定める大学を卒業した者及び令和6年3月までに卒業見込みの者
- ② 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者及び令和6年3月までに授与される見込みの者
- ③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和6年3月までに修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和6年3月までに修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学日本校）を修了した者及び令和6年3月までに修了見込みの者
- ⑥ 文部科学大臣の指定した者
- ⑦ 本学大学院において、個別の出願資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和6年3月31日までに22歳に達する者

② 現職教員等特別選抜

現職教員等特別選抜は、2頁の「2 出願資格」における「(2) 現職教員等特別選抜」に該当し、かつ「(1) 各選抜区分共通の出願資格」のうちのいずれかに該当する者。

## (2) 現職教員等特別選抜

初等中等教育において累計5年以上（令和6年4月1日の時点）の教職経験<sup>\*1</sup>を有し、  
在職のまま<sup>\*2</sup>教育学研究科に入学可能な者を対象とします。

- ① 学校教育法第1条に規定する学校の教員
- ② 教育公務員特例法第2条に規定する教育公務員

※1 経験年数の算出は、入学時点（令和6年4月1日現在）において、教育委員会等に勤務した期間を含め、勤務形態が常勤または常勤の職員と同様である臨時任用の職にあった期間をさします。なお、1ヶ月未満の期間がある場合は1ヶ月に切り上げて算出します。休職した期間は除きます。

5年未満の現職教員は、一般選抜で受験することになります。

※2 在職のままとは、身分を保有しつつも職務に従事しない状態です。大学院修業休業制度等により休業中（予定）の者を含みます。

③ 指定校推薦特別選抜

指定校推薦特別選抜は、埼玉大学教育学部からの指定を受けている大学からの推薦者を対象とします。

指定校の詳細については、埼玉大学教育学部係（048-858-3144）までお問い合わせください。



#### ④ 学部内推薦特別選抜

学部内推薦特別選抜は、埼玉大学教育学部に在籍する4年次生を対象とします。

《推薦対象者》

下記の要件を全て満たす者を推薦の対象者とします。

- ① 将来、教職（保育士含む）に就く強い意志のある者
- ② 教員（保育士含む）としての適性を備えている者
- ③ 本学教育学部において学業成績の優秀な者
- ④ 令和6年3月に卒業見込である者
- ⑤ 教育学研究科に合格した場合に入学を確約できる者

なお、令和6年度は下記募集単位においては学部内推薦特別選抜を実施しません。

・ 特別支援教育サブプログラム

# 学生募集日程

## 1 入学願書等出願期間

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 【第1期】 | 令和5年 7月26日(水) ~ 8月1日(火)  |
| 【第2期】 | 令和5年10月26日(木) ~ 11月1日(水) |

出願は郵送のみとし(期間内必着)、窓口では一切受け付けません。郵送に際しては必ず簡易書留郵便とし、出願書類提出用封筒〔市販の角形2号封筒(24 cm×33.2 cm)〕に書類一式を封入したうえで、封筒の表に「**教育学研究科入学志願書類在中**」と朱書してください。

## 2 試験日時等

### (1) 試験日

|       |               |
|-------|---------------|
| 【第1期】 | 令和5年 9月16日(土) |
| 【第2期】 | 令和5年12月 2日(土) |

### (2) 試験場所

埼玉大学教育学部 (埼玉県さいたま市桜区下大久保 255)

# 一般選抜 指定校推薦特別選抜

## ■ 試験時間割

| 実施単位         |                |               | 試験科目                     |        |
|--------------|----------------|---------------|--------------------------|--------|
| プログラム        | サブプログラム        | 教科等           | 筆記試験等<br>(教職に関する科目、専門科目) | 口述試験   |
| 総合教育高度化プログラム | 学校構想サブプログラム    |               | 10:00~12:00              | 13:00~ |
|              | 特別支援教育サブプログラム  |               |                          |        |
|              | 学校保健サブプログラム    |               |                          |        |
|              | 子ども共育サブプログラム   | 教育学<br>幼児教育   |                          |        |
| 教科教育高度化プログラム | 言語文化系教育サブプログラム | 国語<br>英語      | 10:00~12:30              | 13:30~ |
|              | 社会系教育サブプログラム   |               |                          |        |
|              | 自然科学系教育サブプログラム | 算数・数学<br>理科   |                          |        |
|              | 芸術系教育サブプログラム   | 音楽<br>図画工作・美術 | 10:00~12:00              | 13:00~ |
|              | 身体文化系教育サブプログラム |               |                          |        |
|              | 生活創造系教育サブプログラム | 技術<br>家庭      |                          |        |
|              |                |               |                          |        |

# 一般選抜 指定校推薦特別選抜

## ■ 選抜方法

筆記試験、実技試験及び口述試験、研究計画書及び出身大学等の学長又は学部長が作成した成績証明書を基に総合的に判断します。詳細は10頁以降の「6 受験科目等」を確認してください。

## ■ 配点

|      | 筆記試験等 | 口述試験 | 合計  |
|------|-------|------|-----|
| 一般選抜 | 200   | 100  | 300 |

# 現職教員等特別選抜

## ■ 試験時間割

| 実施単位           |                | 試験科目    |        |
|----------------|----------------|---------|--------|
| プログラム          | サブプログラム        | 教科等     |        |
|                |                | 口述試験    |        |
| 総合教育高度化プログラム   | 学校構想サブプログラム    |         | 13:00～ |
|                | 特別支援教育サブプログラム  |         |        |
|                | 学校保健サブプログラム    |         |        |
|                | 子ども共育サブプログラム   | 教育学     |        |
| 幼児教育           |                |         |        |
| 教科教育高度化プログラム   | 言語文化系教育サブプログラム | 国語      |        |
|                |                | 英語      |        |
|                | 社会系教育サブプログラム   |         |        |
|                | 自然科学系教育サブプログラム | 算数・数学   |        |
|                |                | 理科      |        |
|                | 芸術系教育サブプログラム   | 音楽      | 13:30～ |
|                |                | 図画工作・美術 |        |
|                | 身体文化系教育サブプログラム |         | 13:00～ |
| 生活創造系教育サブプログラム | 技術             |         |        |
|                | 家庭             |         |        |

# 現職教員等特別選抜

## ■ 選抜方法

口述試験、研究計画書、教育実践・研究業績書及び出身大学等の学長又は学部長が作成した成績証明書を基に総合的に判断します。詳細は10頁以降の「6 受験科目等」を確認してください。

## ■ 配点

|           | 口述試験 | 合計  |
|-----------|------|-----|
| 現職教員等特別選抜 | 200  | 200 |

# 学部内推薦特別選抜

## ■ 試験時間割

| 実施単位         |                | 試験科目        |        |
|--------------|----------------|-------------|--------|
| プログラム        | サブプログラム        | 教科等         |        |
|              |                | 口述試験        |        |
| 総合教育高度化プログラム | 学校構想サブプログラム    | 教育学<br>幼児教育 | 13:00～ |
|              | 特別支援教育サブプログラム  |             |        |
|              | 学校保健サブプログラム    |             |        |
|              | 子ども共育サブプログラム   |             |        |
| 教科教育高度化プログラム | 言語文化系教育サブプログラム | 国語<br>英語    | 13:00～ |
|              | 社会系教育サブプログラム   |             |        |
|              | 自然科学系教育サブプログラム | 算数・数学<br>理科 |        |
|              | 芸術系教育サブプログラム   | 音楽          | 13:30～ |
|              |                | 図画工作・美術     | 13:00～ |
|              | 身体文化系教育サブプログラム |             |        |
|              | 生活創造系教育サブプログラム | 技術<br>家庭    |        |

# 学部内推薦特別選抜

## ■ 出願方法等

出願を予定している者は、出願に先立って教育学部各専修内で審査を受ける必要があり（事前審査）、事前審査で、特別選抜の対象として認められた者のみ、特別選抜での受験が許可されます。出願を予定している者は、下記「出願の手順」を参照し、受付期間内に事前審査の出願を行ってください。

### 《出願の手順》

- ① 出願を予定している者は、指導教員等に申し出た上で「推薦承諾書」の記入を依頼します。
- ② 下記の書類を一括して事前審査受付期間内（必着）に埼玉大学教育学部係宛に簡易書留郵便で郵送してください。なお、出願は郵送のみとし、窓口での提出は一切受け付けません。

### (i) 事前審査受付期間

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| 【第1期】 | 令和5年 7月 3日(月)～ 7月 7日(金) |
| 【第2期】 | 令和5年10月 2日(月)～10月 6日(金) |



# 学部内推薦特別選抜

## (ii) 事前審査提出書類

| 書類等の名称 | 摘 要  |
|--------|--|
| 研究計画書  | 本研究科所定の用紙<br>パソコン等で作成しプリントアウトした文書を貼りつけても構いません。ただし、「研究計画概要」の枠内に収まるよう留意してください。裏面を使用することはできません。 |
| 成績証明書  | 埼玉大学教育学部長が作成したもの（厳封不要）。  |
| 推薦承諾書  | 本研究科所定の用紙  |

事前審査の結果を本学教務システムのメッセージにてお知らせします。審査の結果、特別選抜の対象として認められた者は、入学願書等出願期間内に必要書類を郵送で出願して下さい。事前審査受付の際に提出した書類を再提出する必要はありません。

なお本事前審査は、審査の結果、特別選抜の対象として認められなかった者について、一般選抜への出願を制限するものではありません。

### ■ 選抜方法

入学者の選抜は、口述試験、研究計画書、及び埼玉大学教育学部長が作成した成績証明書及び指導教員等が作成した推薦書を基に総合的に判断します。詳細は10頁以降の「6 受験科目等」を確認してください。

### ■ 配点

|           | 口述試験 | 合計  |
|-----------|------|-----|
| 学部内推薦特別選抜 | 200  | 200 |

# 受験科目等

## (1) 受験科目一覧

4頁以降に記載された各選抜区分における試験時間割を参照してください。

| プログラム名       | サブプログラム名          | 教科等 | 筆記試験等<br>(注1～2参照)   | 口述試験 | 備考  |
|--------------|-------------------|-----|---|------|---|
| 総合教育高度化プログラム | 学校構想<br>サブプログラム   | —   | ◎ 教職に関する科目<br>◎ <u>専門科目 (下記から選択)</u><br>・心理学<br>・教育実践学<br><br>◎は全員受験の科目です。<br>また、専門科目のうち受験時に1科目を選択し受験します。 |      | —   |
|              | 特別支援教育<br>サブプログラム | —   | ◎ 教職に関する科目<br>◎ <u>専門科目 (下記必答)</u><br>・特別支援教育に関する科目<br><br>◎は全員受験の科目です。                                   | 口述試験 | 専門科目「特別支援教育に関する科目」の内容は下記を含みます。[特別支援教育学、障害児心理・生理・病理学、障害児指導法（※英語含む。辞書持込可）]<br>※持込可能な辞書は、英和辞書1冊（紙媒体のもの。和英辞書と合冊になっているものは不可）に限ります。 |

|              |                    |      |   |                                |   |
|--------------|--------------------|------|---|--------------------------------|---|
| 総合教育高度化プログラム | 子ども共育<br>サブプログラム   | 教育学  | ◎ 教職に関する科目<br>◎ 専門科目 <u>(下記から選択)</u><br>・教育実践の歴史<br>・教育政策と法<br>・教育の方法<br>・教育と社会<br>・学校教育と社会教育<br>・ジェンダーと教育<br><br>◎は全員受験の科目です。<br>また、専門科目のうち受験時に2科目を<br>選択し受験します。 | は12<br>頁(注)<br>3を参照<br>してください。 | — |
|              |                    | 幼児教育 | ◎ 教職に関する科目<br>◎ 専門科目 <u>(下記必答)</u><br>・幼児教育<br><br>◎は全員受験の科目です。   |                                | — |
| 教科教育高度化プログラム | 言語文化系教育<br>サブプログラム | 国語   | ◎ 教職に関する科目<br>◎ 専門科目 <u>(下記から選択)</u><br>・国語科教育<br>・国文学<br>・国語学<br><br>◎は全員受験の科目です。<br>また、専門科目のうち出願時に願い出た<br>1科目を受験します。  |                                | — |

|              |                |    |  |  |
|--------------|----------------|----|--|--|
| 教科教育高度化プログラム | 言語文化系教育サブプログラム | 国語 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 教職に関する科目</li> <li>◎ 専門科目 <u>(下記から選択)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科教育</li> <li>・国文学</li> <li>・国語学</li> </ul> </li> </ul> <p>◎は全員受験の科目です。<br/>また、専門科目のうち出願時に願い出た1科目を受験します。</p>  | —  |
|              | 言語文化系教育サブプログラム | 英語 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 教職に関する科目</li> <li>◎ 専門科目 <u>(下記必答)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育</li> </ul> </li> </ul> <p>◎は全員受験の科目です。</p>  | <p>専門科目「英語教育」の内容は下記を含みます。<br/>(英語科教育、英語学、英語文学)<br/>辞書持込不可です。<br/>筆記試験等、口述試験では英語による解答を含みます。</p> |
|              | 社会系教育サブプログラム   | —  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 教職に関する科目</li> <li>◎ 専門科目 <u>(下記から選択)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科教育</li> <li>・地理学</li> <li>・歴史学</li> <li>・法学</li> <li>・社会学</li> <li>・倫理学</li> </ul> </li> </ul> <p>◎は全員受験の科目です。<br/>また、専門科目のうち出願時に願い出た1科目を受験します。</p> | —  |

|              |                |         |  |                              |   |
|--------------|----------------|---------|--|------------------------------|---|
| 教科教育高度化プログラム | 自然科学系教育サブプログラム | 算数・数学   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 教職に関する科目</li> <li>◎ 専門科目 <u>(下記から選択)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 算数・数学教育</li> <li>・ 数学</li> </ul> </li> </ul> <p>◎は全員受験の科目です。<br/>また、専門科目のうち受験時に1科目を選択し受験します。</p>  | 述試験の内容については12頁(注)3を参照してください。 | —   |
|              |                | 理科      | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 教職に関する科目</li> <li>◎ 専門科目 <u>(下記必答)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理科教育</li> <li>・ 理科</li> </ul> </li> </ul> <p>◎は全員受験の科目です。</p>   |                              | —   |
|              | 芸術系教育サブプログラム   | 音楽      | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 教職に関する科目</li> <li>◎ 専門科目 <u>(下記から選択)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽科教育</li> <li>・ 器楽(実技)</li> <li>・ 声楽(実技)</li> </ul> </li> </ul> <p>◎は全員受験の科目です。<br/>また、専門科目のうち出願時に願い出た1科目を受験します。</p>   |                              | 12頁「(2) 芸術系教育サブプログラム(教科:音楽)における実技試験について」を参照してください。      |
|              |                | 図画工作・美術 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 教職に関する科目</li> <li>◎ 専門科目 <u>(下記必答)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術教育</li> </ul> </li> <li>◎ 専門科目 <u>(下記から選択)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術科教育</li> <li>・ 絵画(実技)</li> <li>・ 彫刻(実技)</li> <li>・ デザイン(実技)</li> </ul> </li> </ul> <p>◎は全員受験の科目です。<br/>また、専門科目(必答)の美術教育に加えて、専門科目(選択)のうち出願時に願い出た1科目を受験します。</p> |                              | 12頁「(3) 芸術系教育サブプログラム(教科:図画工作・美術)における実技試験について」を参照してください。 |

| プログラム名       | サブプログラム名       | 教科等 | 筆記試験等<br>(注1～2参照)  | 口述試験                          | 備考   |
|--------------|----------------|-----|--|-------------------------------|--|
| 教科教育高度化プログラム | 身体文化系教育サブプログラム | —   | ◎ 教職に関する科目<br>◎ 専門科目 ( <u>下記から選択</u> )<br>・体育学<br>・運動学<br><br>◎は全員受験の科目です。<br>また、専門科目のうち出願時に願い出た1科目を受験します。 | 口述試験の内容については12頁(注)3を参照してください。 | —  |
|              | 生活創造系教育サブプログラム | 技術  | ◎ 教職に関する科目<br>◎ 専門科目 ( <u>下記必答</u> )<br>・技術教育<br><br>◎は全員受験の科目です。  |                               | —  |
|              |                | 家庭  | ◎ 教職に関する科目<br>◎ 専門科目 ( <u>下記必答</u> )<br>・家庭科教育<br><br>◎は全員受験の科目です。   |                               | 専門科目「家庭科教育」の内容は下記を含みます。<br>(家庭経営学、児童学、食物学、住居学、被服学) |

# ⑥現役院生の言葉

教職大学院 1年  
学校構想サブプログラム  
赤間 大樹さん



# 私の大学院の紹介

学校構想サブプログラム

教職実践専攻1年

赤間大樹



# ここに入学したきっかけ

- コロナ禍で失った学生生活を取り戻したい
- もう少し教職(教育学)について知識や自分の考えを深めたい
- 埼玉県の教職を目指すなら、埼玉県の教職に詳しい大学院に進学したい

# 授業の様子

## 【大学の授業】

- ・基本は学生50～100人程度に対し、教授は1人の集団講義
- ・基本は講義を受けるだけで、ディスカッションの時間はほとんどない
- ・グループでの発表活動が多かった
- ・教授にはメール等で質問するしか方法がなかった

## 【大学院の授業】

- ・基本は少人数授業(学生5～6人程度に対して教授が3人程度)
- ・グループディスカッションが授業内活動の半分以上を占める
- ・自分で探究課題を見つけ、調査し、発表する授業もある
- ・教授に授業内容等を直接質問できる

# 入学後の感想

- 大学生の時に学びきれなかった教育分野の理論や課題を勉強することができ、すごく楽しい！
- 現職の先生方と一緒に勉強できるため、すごく良い刺激になる！
- 他教科、他分野を専攻している院生とも意見を交換することができ、自分の知見が深まる！
- 院生と教授の仲がすごく良い！

ご清聴ありがとうございました。  
院生一同心からお待ちしております！

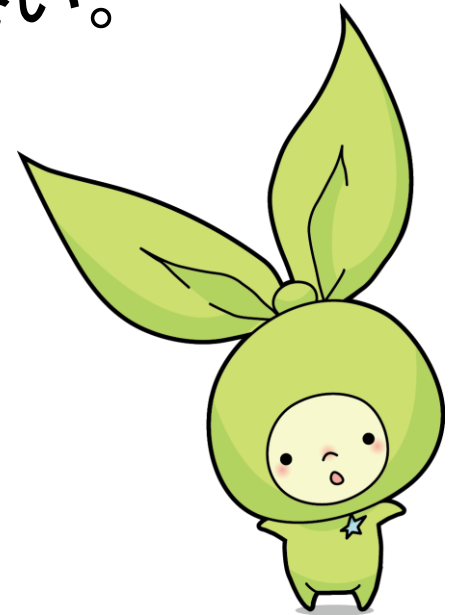
# ⑥ 現役院生の言葉

教職大学院 2年  
生活創造系教育サブプログラム (技術)  
小浦 一さん



## ⑦ 質疑応答

- Zoom参加の方はチャットにて質問内容をお送りください。
- 対面参加の方はお近くのマイクを使用して質問してください。

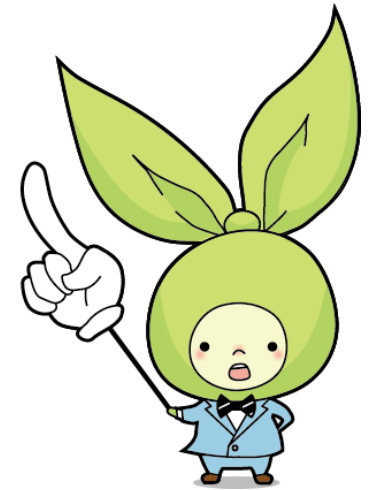


# お知らせ

## 〈教職大学院のHPで過去問題が公開されました。〉

- ・過去問題閲覧の際は、フォームに回答する必要があります。
- ・フォームに回答後、送付されるパスワードを入力して閲覧ください。
- ・閲覧できる過去問題は過去3年分です。
- ・年度によっては試験を実施していないサブプログラムがあります。

過去問題閲覧の詳細については、  
「**埼玉大学教育学研究科 過去問題閲覧**」と検索  
または、  
教育学研究科HPトップページより  
受験生の方〉過去問題閲覧 でご確認ください。



**本日はご参加いただき  
ありがとうございました。  
最後にアンケートの  
ご協力をお願いします。**



埼玉大学マスコットキャラクター メリンちゃん

**アンケート回答はこちら→**

